岡山県精神科医療センター　コミュニケーション広報誌

Jupiter

ジュピター

2024
冬号
VOL.53

岡山県精神科医療センター理念 | 人としての尊厳を第一に安心・安全の医療をめざします。

CONTENTS

2 新年のごあいさつ
3 病院優良職員表彰式
4 CAREワークショップを開催
4 岡山発の川モデルが世界の共通言語に
5 令和5年度中国地区DMAT連絡協議会実働訓練報告
6 日本精神障害者リハビリテーション学会第30回 岡山大会
7 岡山ネット懇（岡山高齢者・障がい者権利擁護ネットワーク懇談会）
制度の狭間にある社会課題に対応する民間活動シリーズ vol.4
8 EVENT REPORT
・東古松サンクト診療所　デイケア
・岡山県精神科医療センター　デイケア

当センターのシンボルマークは安心・安全の医療を表しています

ノアの方舟で主人公ノアがハトを放ち、オリーブの葉をくわえて船に戻ってきたところを表しています。安住の地を求めて、安心・安全の医療を追求し進んでいくことをシンボライズしています。

表紙写真：理事長の書「春」

新年のごあいさつ

今年の一文字
開

院長
来住 由樹

門を人が外してあけるさまを「開」と表す。
扉を開く、心を開く、病院を開く。
開くと外から色々と入ってきて揺さぶられる。
開いて、ぶつかり、笑って、一緒に作る。
きっと外と内はつながり、
まだ見ぬ何かが生まれ出るに違いない。

今年の一文字
道

副理事長
山田 了士

人生色々、一本道を歩む人、かどをたくさん曲がっていく人、歩み方もそれぞれ。道がないのにむりやり進む人だっている。その時見えている道を道なりに歩いていても、突然思わぬ道に出てしまうこともある。今の道でいいのか分からなくなったり、何のために歩いているのかわからなくなったりもする。けれども、歩いていれば必ず出会う人がいて、手伝い手伝われながら歩いていると、やがて景色も変わる。そうしたらまた納得したりするから、それがよいのだろう。「春」に「道」を「開」く。

今年の一文字
春

理事長
中島 豊爾

今年は元日から大地震。輪島の西部は4メートルも隆起したという。長い歴史の中では何度も起こってきたことであろうが、まさか自分が生きている間に目にするとは思わなかった。
春は年の初めということになっており、人は一つ歳を取る。これを繰り返して世代となる。この世代についていけなくなった時に、人は老いる。

〝老兵は死なず、ただ消えゆくのみ〟

病院優良職員表彰式

令和5年10月27日(金)、岡山県病院協会主催の「病院優良職員表彰式」がホテルグランヴィア岡山にて行われました。県内の医療従事者のうち、今年度は197名が表彰され、当センターからは3名が受賞しました。この度は本当におめでとうございます。

看護師　石神弘基

令和5年10月27日(金)、岡山県病院協会主催の病院優良職員表彰式に参加させていただきました。式典で祝辞や職員としての心構えについてのお言葉をいただき、当院に勤めた16年間で多くの患者さんとの関わりを通じて、私自身が成長させてもらったことに感謝しつつ、改めて自身の足蹠(そくせき)を振り返る機会となりました。今回はこのような貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

看護師　黒川明

令和5年度岡山県病院優良職員表彰式に出席させていただきました。平成18年同期入職の荒金看護副部長、医療観察法準備室から苦楽をともにした石神看護副部長と一緒に表彰され、入職当時を思い起こす良い機会となりました。地域での生活が難しいとされた患者さんのリカバリーに携わることができた貴重な経験だけでなく、COVID-19入院棟での経験を乗り越え入職17年が経過しました。これまで支えていただいた方々に感謝しながら、これから自分にできることを模索し、職務を全うしたいと思います。

看護師　荒金淳子

病院優良職員として表彰していただき、ありがとうございます。私は当センターに入職してから18年目となります。その前は総合病院で働いていましたが、当センターではとにかく患者さんファーストで対応するという気風に驚くとともに刺激を受け続けた日々を過ごしてまいりました。いくつになっても患者さんやスタッフに教えてもらうことが多く、周りの皆に支えてもらっていると感謝しています。これからも引き続きよろしくお願いいたします。

CARE™ワークショップを開催

（Child-Adult Relationship Enhancement）

令和5年12月14日、専門家向け「CAREワークショップ」を開催しました。「CARE」は、子どもとより良い関係を築くときに大切な関わり方のポイントを体験的に学ぶことができるプログラムです。専門家向けと養育者向けの2種類があり、当センターでは、それぞれ年に数回ずつ集団でワークショップを実施したり、医師の指示を受けて心理面接内で個別にお伝えしたりしています。

今回も入院棟や外来、デイケア、訪問看護など、様々な部署から医師12名、看護師4名、精神保健福祉士3名が集まりました。グループワークでは、実際におもちゃを使い、親役、子ども役、観察者役に分かれて「CARE」のスキルを実践しました。実践の中では子ども役に照れたり、親役に苦戦したりなど普段の業務の中では見られない姿もあり、講師も一緒に楽しく学ばせていただきました。参加後のアンケートでは「具体的で分かりやすく楽しく学べた」「子どもとの関わりが苦手なので、今日学んだことで接し方が変わりそうだ」「育て方に不安がある親御さんに広まってほしい」などの感想をいただき、とても嬉しく思います。今後も引き続き「CAREワークショップ」の開催を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。

（公認心理師・新庄加奈）

親役はこども役を褒めながら優しく話しかけます

どんなおうちにしようかな～

子どもの頃に戻っておもちゃで遊んでみる

岡山発の川モデルが世界の共通言語に

アメリカ・カナダをはじめ世界で幅広く使われている作業療法の教科書『Willard & Spackman's Occupational Therapy,14th ed.』に、「川モデル」が初めて掲載されました。と言っても「川モデル？」と思われた方も多くいらっしゃると思います。

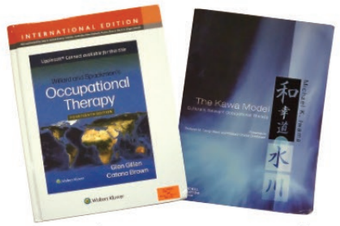
「川モデル」とは、1999年に私たちを含む岡山県内の多分野で働く作業療法士が集まり、「作業療法とは？」との語り合いから生まれた作業療法理論です。2000年第34回日本作業療法学会、2002年第13回世界作業療法士連盟国際学会、2003年第3回アジア太平洋作業療法国際学会、2014年第16回世界作業療法士連盟国際学会で発表しました。2016年には、世界作業療法士連盟の定める作業療法士の最低教育基準に「川モデル」が採択されています。

「川モデル」は、人生を川に喩え、病気や障害、健康な状態を説明します。日々私たちは臨床現場で、様々な困難に直面して水がせき止められた川のように、暮らしの流れが止まっている方々に出会います。そのような方々に、作業療法を通じて私たちの川と共に流れ、その人らしく生き生きと暮らせることをお手伝いしたいと思っています。

「川モデル」について興味を持った方は、お気軽に私たち作業療法士にお声がけください。

（作業療法士・初鳥日美、奥田真由美）

（左から）初鳥作業療法士、奥田作業療法士



「Willard & Spackman's Occupational Therapy,14th ed.」と2006年に発行された「The Kawa model:culturally relevant occupational therapy」

令和5年度中国地区DMAT連絡協議会 実働訓練報告

去る2023年11月25日、令和5年度中国地区DMAT連絡協議会実働訓練を実施しました。この訓練は、毎年中国5県で持ち回りで実施されていますが、今年は6年振り（3回目）に岡山が当番県だったため、県内の精神科関連施設から県庁（精神保健福祉班）をはじめ、精神保健福祉センター、慈圭病院、林病院、ももの里病院、当センターが訓練に臨みました。訓練の名前はDMATとなっていますが、毎年当センターのDPATも参加しています。また、医療機関だけでなく中国電力やNEXCO西日本、自衛隊、消防局、岡山県警、ピースウインズ・ジャパンなど、災害支援に関わる多くの組織が参加しました。せっかくの大規模訓練なので、6年前と同様に院内の訓練も兼ねて多くの職員が参加しました。

被害想定としては、超大型台風が岡山県南部に上陸し、岡山・倉敷地域を中心に、浸水、停電、断水等が発生したというシナリオでした。訓練の内容は、院内の災害対策本部の立ち上げから、入院患者の安全確認、ベッドコントロール、食事提供準備、慈圭病院からの患者受け入れ、集積患者の搬送調整など多岐にわたりました。

一方で、当センターのサンクトホールを浸水した希望ヶ丘ホスピタルに見立て、DPATによる指揮所の立ち上げや、訓練としては稀なDMAT・DPAT合同トリアージ&入院患者搬送訓練も行いました。

予定では県北からやって来てくれるはずだった団体が、到着予定時間にまだ現地を出発していなかったことが明らかになり、想定外のことも起こるなどシナリオ通りの訓練は叶いませんでしたが、想定外を想定する…これは「失敗学のすすめ」（講談社文庫）の著者である畑村洋太郎氏の言葉にもあるように、実災害でも想定外は必ず起こるということを忘れてはいけないと、改めて感じた一日でした。

年明けに石川県能登半島を震源とする地震があり、職員一同心を痛めています。少しでも被災地の助けになれるよう、いつでも出動できるよう準備を整えています。

（臨床研究部・北川航平）

医師と看護師でベッドコントロールの相談を行う

災害対策本部で得られた情報と、本部が行った対応を総括し情報共有を行う

衛星電話の接続を確認

病院避難で他院から搬送されてきた患者を、一時集積所前で受付およびトリアージを行う

●DMAT（Disaster Medical Assistance Team）…災害派遣医療チーム　●DPAT（Disaster Psychiatric Assistance Team）…災害派遣精神医療チーム

日本精神障害者リハビリテーション学会
第30回 岡山大会

令和5年12月2・3日、「日本精神障害者リハビリテーション学会 第30回岡山大会」が倉敷市芸文館で開催されました。

本学会は「暮らしのためのリハビリテーションを問い直す」というテーマの下、大会長である当センター山田了士副理事長の講演で幕が開きました。講演やシンポジウムだけでなく、学会員が企画する自主プログラムも盛況で、多数のポスター・企画展示が埋め尽くす会場には活気が溢れていました。3年ぶりの現地開催ということもあり、全国から500人以上が集い、対面での学びや親睦を深めました。

本学会の要である、特別講演「なぜ『くらし』のアナキズムを考えるのか?」では、文化人類学者で「くらしのアナキズム」の著者である松村圭一郎氏(岡山大学文学部大学院社会文化科学研究科)による講演が、滞在先のフランスからオンラインで行われました。

松村氏は「国家」という匿名のシステムではなく、一人ひとりの「くらし」や「顔のみえる関係」を重視しており、講演後には、岡山県内の実践者として「岡山高齢者・障がい者権利擁護ネットワーク懇談会」のキーパーソンである井上雅雄弁護士を迎えて対談も行われました。

井上弁護士より「ネットワーク懇談会から生まれた多くの支援は全て『Aさんの支援』に置き換えることができる」と結ばれると、松村氏も大きく頷き、「一人の人と出会うこと、そこから生まれる等身大の対処を疎かにしないことが大切」と重ねていました。

特別講演講師
弁護士法人
岡山パブリック法律事務所
倉敷支所
弁護士 **井上雅雄**氏

特別講演講師
文化人類学者
岡山大学文学部
大学院社会文化科学研究科
准教授 **松村圭一郎**氏

グループワーク

学会員が企画する自主プログラムでは、たくさんの活動報告やグループワークが催されました。井上弁護士が携わる精神医療アドボケイトの報告会では、他県で同様の活動をする人達が多く参加しており、活発な質疑応答が繰り広げられました。

ポスター展示

特別展示企画「長島愛生園にみるハンセン病の政策と医療～歴史・暮らし・人～」では、ハンセン病問題を体系的にとらえ、時代と政策の変遷を学び、現在の精神科医療の在り方にも迫る内容で、多くの人が足を止め興味深く鑑賞していました。

県民講座

本学会では統合失調症からの回復とリカバリーを理解するための県民公開講座も行われ、松本キック氏とハウス加賀谷氏による講演や、アドバンスレベルWRAP®ファシリテーターの増川ねてる氏も加わったパネルディスカッションがあり、リカバリーのプロセスを紐解くとともに「焦らない、でも諦めない」という回復の境地について語られていました。

岡山ネット懇(こん)(岡山高齢者・障がい者権利擁護ネットワーク懇談会)

人と出会う、課題に出会う。出会ってしまった以上、無視することはできなかった。

――岡山パブリック法律相談所 倉敷支所長 **井上雅雄** 弁護士

個人の生き方や家族の在り方が多様化しています。既存のサービスでは解決できない課題を抱えた患者さんに出会う時、民間団体の支援に救われることが増えています。岡山県には他県から驚かれる、民間団体の支援ネットワークがあるのをご存知でしょうか。今回は開始から20年を迎える「岡山ネット懇」の活動を当センター来住院長と一緒に紹介します。

(左より)岡崎精神保健福祉士、黒岡精神保健福祉士、来住院長、井上弁護士

岡山ネット懇の成り立ち

来住 井上先生とはよくご一緒しますが、その時々で、患者さんの後見人だったり、虐待防止アドバイザーだったり、先生の立場が幾つも変わるので驚かされます。

井上 そうですね。私は成年後見をはじめとする権利擁護、入居支援、虐待防止、最近では精神医療アドボケイトなど、様々な活動に携わっています。きっかけは平成12年介護保険や成年後見制度が始まった頃、社協の「運営適正化委員会」の一員として「司法と福祉の連携ができたらいいな」と思ったことです。そこで士業団体だけでなく、家族会・高齢者関係・福祉施設など多くの団体に声をかけ、平成15年に懇談会を行いました。これが「岡山ネット懇(岡山高齢者・障がい者権利擁護ネットワーク懇談会)」です。すぐに「せっかく多業種が集まったからワンストップで相談できる相談会をしよう」と決まりました。

黒岡 現在も続く「高齢者・障害者なんでも相談会」ですね。

井上 司法と福祉の専門職がペアで相談会に臨みました。すると司法の人は障害理解が進み、福祉の人は法律を学び、互いに相談できる関係性を築いたのです。活動を通じて、若者の長期支援を可能にする法人後見の必要性に気付き、NPO法人岡山高齢者・障害者支援ネットワークを作りました。こうしてネット懇のメンバーは課題を見つけると自主的に受け皿団体を作り支援する流れができ、今のように様々な支援機関が誕生したのです。

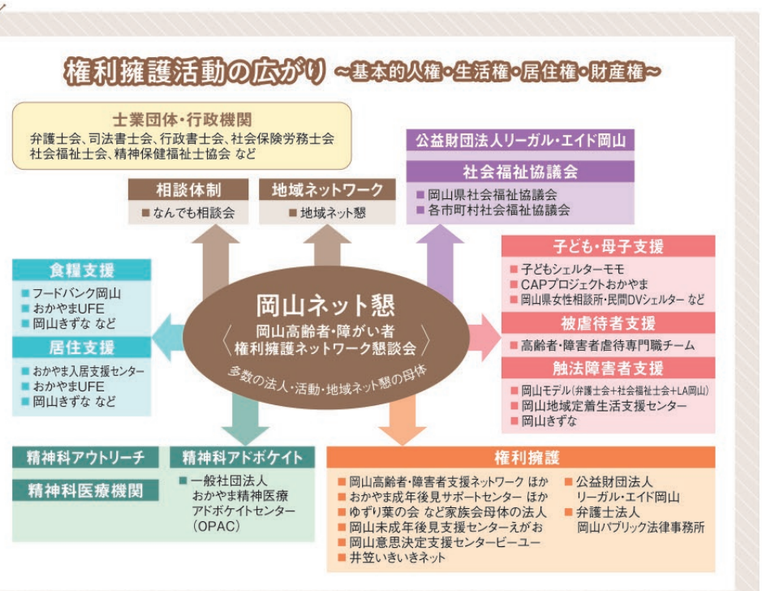
精神科との関わり

黒岡 昨年発足した、「おかやま精神医療アドボケイトセンター」もその一つですね。

井上 精神科との関わりは深いです。平成20年、岡山ネット懇に参加していた岡山県精神保健福祉センター所長から「退院できる患者さんも、住居が決まらなくて退院できない」と物件保証の仕組みについて相談がありました。調べると、大家さんが精神疾患を持つ人との契約に不安を感じていることが分かったので、支援の存在が保証の安心材料になる仕組みと、おかやま入居支援センターを作りました。その後も虐待防止やアウトリーチ等で関わり、今回のアドボケイト活動に繋がっています。

来住 井上先生の原動力を教えてください。

井上 元々は美味しいお酒が好きでシャイな性格です。ただ、活動の中でこんな人と知り合ってしまった、こんな課題と出会ってしまった以上は「その分野を無視できない」という感覚でやってきました。具体的で確信を持った提言をするためにも、現場を見て実態を知ることを大切にしています。そして、どんなことも私一人だけではできない、周りの人と一緒にできるように、といつも思っています。



岡山ネット懇を母体とする支援ネットワーク。この活動は「日本精神障害者リハビリテーション学会第30回岡山大会」特別講演「なぜ『くらし』のアナキズムを考えるのか?」でも紹介され、文化人類学者の松村圭一郎氏と井上雅雄弁護士との対談も行われた。

EVENT REPORT

東古松サンクト診療所　デイケア
久しぶりのイベントが盛り沢山

コロナ禍で自粛していたバス旅行を開催。廣榮堂きびだんご工場へ行き、きびだんごの歴史を学んだり工場を見学したりしました。大きな機械で餅を捏ねたり、形成・梱包されていく様子から、ひとつのお菓子がで出来上がるまでのこだわりを感じました。昼食は「遊食房屋」。広々とした宴会席に、お刺身・天ぷら・沢山の小鉢が乗ったお膳…贅沢な時間を満喫。当日は快晴で、秋風を心地よく感じられました。

11月には念願の焼き芋会を開催。診療所で栽培したさつまいもを皆で収穫。炭火でじっくり火を通したさつまいもは黄金色に熟され、口いっぱいに優しい甘みが広がりました。

クリスマス会は多くのボランティアの方に来て頂き、賑やかに開催できました。久しぶりのクリスマスケーキに皆が笑顔になっていました。

また、診療所開所から11年目となり、久しぶりに住民講座を開催。高瀬所長の講義と初鳥作業療法士によるストレス対処の体験など、近隣の町内からも参加して頂き、継続開催も希望される声がありました。

年末には、東古松４丁目町内会の餅つきを久しぶりに行いました。子どもたちもあんこを丸めたり、杵で餅をついたりと目を輝かせながら楽しんでいました。

きれいに盛り付けられたお膳

みんな大好き、きびだんご

やっぱり杵での餅つきが楽しい!

はいばージュンさんによるマジックショー

岡山県精神科医療センター　デイケア
今年もよろしくお願いします

新年あけましておめでとうございます。今年もデイケアをよろしくお願いいたします。

暖冬といえど、寒い日が続いていますね。デイケアで育てているアボカドは、寒さに負けずとすくすく成長しています。水やりをしてくれている生き物係のみなさんの愛情がこもっているからだと思います。この一年で葉の数が増え、茎が太くなりました。実がなるにはまだ時間がかかると思いますが、今後の成長が楽しみです。

昨年は、秋から冬にかけて多くのイベントが行われました。10月には後楽園に秋の散策へ、11月は文化祭、12月にはクリスマス会を行いました。

２０２３年の最後を締め括るイベントは大掃除でした。年末の大掃除には、「煤払い（すすはらい）を行い、神様を迎える準備をする」という目的があるそうです。来所してくださった利用者さんみんなで、普段使っている椅子や机、ホワイトボート、窓など、隅々まで綺麗にしました。やり出すと止まらないのが大掃除。気づけば時間いっぱいまでフロア内を磨き上げていました。バケツの水が濁るほど掃除をし、達成感を感じながら新年を迎える準備を整えました。

池からヌートリアが…

後楽園の美しい庭園

年末の大掃除

生き物係のみんなが育てたアボカド

編集後記

この度、令和６年元日に発生した能登半島地震により被害に遭われた皆さまへ、心からのお見舞いを申し上げます。そして、ご家族や大切な方々を亡くされた皆さまへ、謹んでお悔やみを申し上げます。当センター職員一同、現地に心を重ねつつ、臨床に尽力したいと思います。被災地では余震が続き、不安な日々が続いていることと存じますが、皆様の安全と一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

なお、当センターからも被災地域へDPAT先遣隊を派遣し、精神科医療が必要な方々への支援に努めてまいります。

年が明け一カ月以上経ってしまいましたが、本年も広報誌『Jupiter』をどうぞよろしくお願いいたします。

（事務部・志茂香代子）

Jupiter　2024年 冬号 VOL.53

2024年2月8日発行

発行人　中島 豊爾
編集人　来住 由樹
発行所　地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター
岡山市北区鹿田本町3-16
TEL.086-225-3821㈹
ホームページ　https://www.popmc.jp
制作協力　㈱あどりえ、ぽう
印刷所　友野印刷㈱